



Beraprost and Overall Survival in Cats with Chronic Kidney Disease

Hiroyuki Ito; Takumi Matsuura; Tadashi Sano

Vet. Sci. 2023, Volume 10, Issue 7, 459

慢性腎臓病のネコにおけるベラプロストと全生存率

— 上記論文要約 —

伊藤裕行^{1,†} 松浦巧^{2,†} 佐野忠士³

1 荏谷動物病院グループ市川総合病院、千葉272-0034、日本

3 酪農学園大学獣医学部、北海道069-8501、日本

† これらの著者はこの研究に同等に貢献した。

2 東レ(株)、東京103-8666、日本;

* 通信: h.ito@kariya-ah.co.jp

概要:

慢性腎臓病(CKD)は、高齢ネコに高頻度にみられる疾患である。CKDは一般的に他の疾患と同時に診断されるため、合併症を含む全死因による死亡(以下、全死因死亡)に基づく全生存率は、ネコCKDの治療効果の最も重要な評価項目である。研究者らは全生存期間を改善するための動物用医薬品を探してきたが、残念ながらまだ発見されていない。ベラプロスト(別名ベラプロストナトリウムまたはBPS)は、血管保護というユニークな作用を有するプロスタサイクリン類似体であり、レニン-アンジオテンシン阻害薬の作用とは全く異なる。本研究は、ベラプロスト療法が全生存率改善と関連することを実証し、この知見は、臨床診療現場においてCKDに罹患しているネコ、飼い主、および獣医師に光を当てた。

要旨: 背景:

全生存率はネコ慢性腎臓病(CKD)の治療効果の最も重要な評価項目である。ベラプロストは、国際獣医腎臓病研究グループ(IRIS)のステージ2および3のCKDに罹患するネコの腎機能低下を抑制させることが示されている。しかし、ベラプロスト療法と生存期間の延長の関係はまだ検討されていない。

目的: 臨床診療現場におけるCKDのネコにおけるベラプロスト投与と全生存率との関係を評価すること。

動物: 2017~2020年の間にIRISステージ3のCKD (n = 134)の飼いネコを評価した。

方法: 動物病院の電子カルテデータに基づく後ろ向きコホート研究。

結果: コホートを「ベラプロスト療法」群と「ベラプロスト療法なし」群に分け、生存分析の結果、 Kaplan-Meier曲線を用いて、全生存期間がベラプロスト療法群で有意に長いことを明らかにした(p = 0.004)。しかし、重要な予後指標であることが知られているベースライン時の血中無機リン値は両群で不均衡だった。そこで、ベースラインの血中無機リン値が6.0mg/dL未満のネコ97匹からなるサブコホートを選択したところ、群間の血中無機リン値は均衡となった。このサブコホートにおける生存率データは、研究全体のコホートのデータと一致していた。

結論: CKDのネコにおいて、ベラプロスト療法は全生存率改善と関連する。

論文全文は、上記QRコードもしくは [こちら](#) よりご覧いただけます